

九州大学新キャンパス計画専門委員会 地域連携ワーキンググループ

報告書概要版

平成10年3月

九州大学

1. 地域連携ワーキング・グループの役割と目的

今、「大学」は大きな転機を迎えている。グローバル化の進展と地球規模の複層的課題が山積する時代の転換期のなかで、大学のもつ英知を結集していくことが求められているからである。

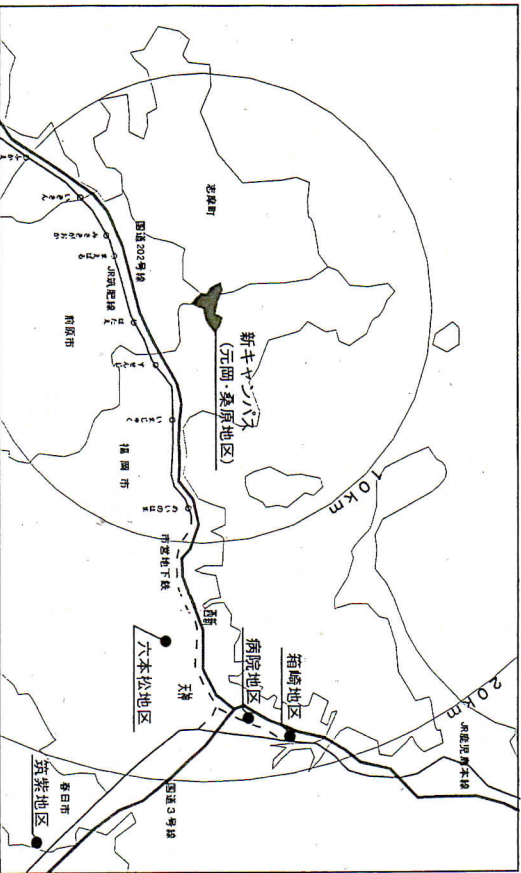
九州大学は、「国際的・先端的な研究・教育拠点(COE)の形成」と「自律的に変革し活力を維持し続ける社会に開かれた大学の構築」を基本コンセプトとした大学改革を進めつつある。この大学改革の理念を新キャンパス統合移転に反映させるために、この地域連携ワーキング・グループが1997年6月にスタートした。

はじめて学外から招いた都市計画専門家、地元経済界、マスコミ関係の委員5名を交えて、率直かつ活発に意見を交換しながら、我々がともに願ったことは、元岡新キャンパスを含む糸島地域全体を21世紀のアジアをリードする学術特別区として整備することであり、それを通じて世界的な学術研究都市の構築を目指すことであつた。

その理想はどのようにして実現されるのか。われわれは、まず研究・教育という大学の資源を核として、地域と連携しながら、豊かな地域づくりの実現に関わり合うことが不可欠と考える。しかし、それが、単に地域産業振興を柱とした地域活性化にとどまらず、大学の総合性を活かした内発型の地域ダイナミズムを生み出し、そして、それがまた大学をアジア、ひいては世界の舞台に立たせるものとなっていくためには、大学と地域が真のパートナーシップを築き上げていかなければならない。

それは、かつて都市の中から生まれしてきた大学を再び地域の中に埋め戻しながら、新たな時代の大学像を構築する途でもあるといえよう。この報告は、そうした問題意識に立ちながら、21世紀の大学づくりのモデルとなりうる新たな大学像がもつべき方向性を明示しつつ、その方向性を支える大学の新たな機能と機構を具体的に提示しようとするものである。

■新キャンパスの位置



【学術研究都市整備の背景の整理】

<p>国の科学技術振興と地域産業振興の方向性</p> <p>研究開発機能の強化や知識集約型産業の形成により、地域が自律的に発展することが求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術貿易の赤字(対欧米) ・科学技術基本法の制定 ・九州北部地域における文化・学術・研究拠点の整備等による一体的圏域の形成(空想) 	<p>九州・福岡地域における地域産業活性化の必要性</p> <p>知識集約型産業の集約が促ぐ、産業構造の高度化と人材流出の抑制が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大卒人材の流出 ・民間研究機関の立地や科学研究者・技術者の集約が低い ・工業所有権の出願率が低い 	<p>大学を巡る環境の変化</p> <p>地域振興の核として、大学の役割が増大している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携(共同研究等)の増加と国の諸制度の改善 ・大学間競争の激化 ・開かれた大学へのニーズの高まり ・大学とまちづくりのシナジー
--	---	---

<p>事例二 見る学術研究都市の現状と課題</p> <p>背景:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域経済の低迷 ・大卒人材の流出 ・産業構造転換の強いニーズ <p>理念・基本方向:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携による地域振興 ・良好な研究環境の充実 ・魅力的な居住環境の実現 ・競争力の高い投資環境の整備 <p>成果:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎知識集約型産業の集約形成 →地域経済力のアップ 雇用数の増加 新たな都市づくりの推進 <p>課題:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘致依存型ではなく内発型の産業育成 ・総合的な地域課題への対応(福祉・環境等)
--

<p>糸島地域の現状と課題</p> <p>糸島地域の学術研究都市の方向性(インテック研究学園都市検討調査)の検討</p> <p>「九州大学を核とした新たな時代の地域産業振興拠点の形成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大卒人材の流出を抑制し、アジア・九州・福岡の知識集約型産業の振興をリードする拠点づくり ○世界的な学術研究振興の拠点づくり ○地域への定住を促進する文化的な生活環境の整備 ○オメガ/テラ/メガ/ニガを支える人材集積(地域の知的環境の充実) ○地域資源(自然・農業)を活かした環境共生型の実験都市づくり 	<p>糸島地域に関連する上位計画</p> <p>九州大学を核とする糸島地域の学術研究都市整備の重点プロジェクトとしての位置付けが求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チカオ/テラ/メガ/ニガ(17策定) ・ふくおか新世紀計画(H9策定) ・福岡県科学技術政策(策定中) ・アジアス九州(推進中) ・福岡市産業振興方策(H8策定) 	<p>学術研究都市整備の方向性(既行調査計画)</p> <p>九大との連携を活かした具体的なまちづくり方策の検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイモート地域プラン(福岡県、H7) ・福岡市西部まちづくり構想委員会(福岡市、H8) ・インテック研究学園都市検討調査(福岡市、前原市、志摩町、二十町、住・都公団、H8～継続中)・・・等
--	--	--

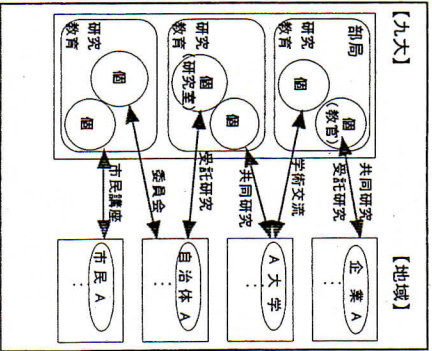
<p>九州大学に期待される役割</p> <p>九大の資源(研究・教育)を核とした第3の軸:『パートナーシップ』の構築</p> <p>地域連携の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携による知識集約型産業の創出 ・官学連携による政策立案や地域課題の解決 ・大学間連携による地域全体での学術研究教育振興 ・市民との交流拠点となる開かれたキャンパスの実現 ・生涯学習など地域の知的環境の充実や文化振興 ・移転に伴う大学周辺まちづくりの推進 ・その他、市民サービスの充実・・・等 	<p>九州大学の方向性(大学改革案)</p> <p>世界レベルのCOE化を図るとともに、産業界・地域核としての地域連携の推進が求められる。</p> <p>1. 大学改革のコンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「時代の変化を先取りして自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた研究大学」の構築 ○「国際的・先端的な研究・教育拠点(COE)の形成」 <p>2. 具体的な改革課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附置研究所の全国共同利用化・中核的研究拠点化 ・学士・修士一貫教育(大学院重点化) ・社会人・外国人・入国・入教の充実 ・社会連携(産学連携)の強化 ・国際連携の強化 ・・・等
--	--

2. 地域連携の基本コンセプトと方策
地域連携の基本コンセプト

大学の資源(研究・教育)を核とした第3の軸：『パートナーシップ』の構築

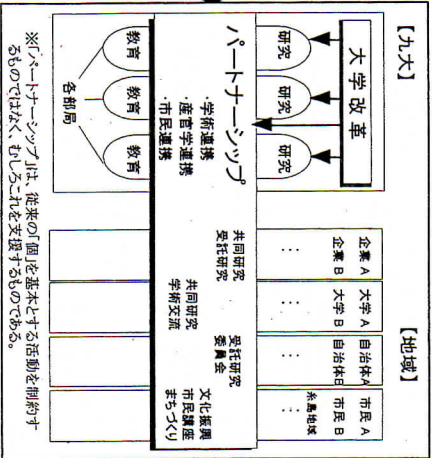
従来

・旧(教育あるいは研究)の活動が基本であり、大学としての総合性を活かしていない
・学外(企業、自治体、市民)からみられた窓口がわがかりでない



今後の方向性

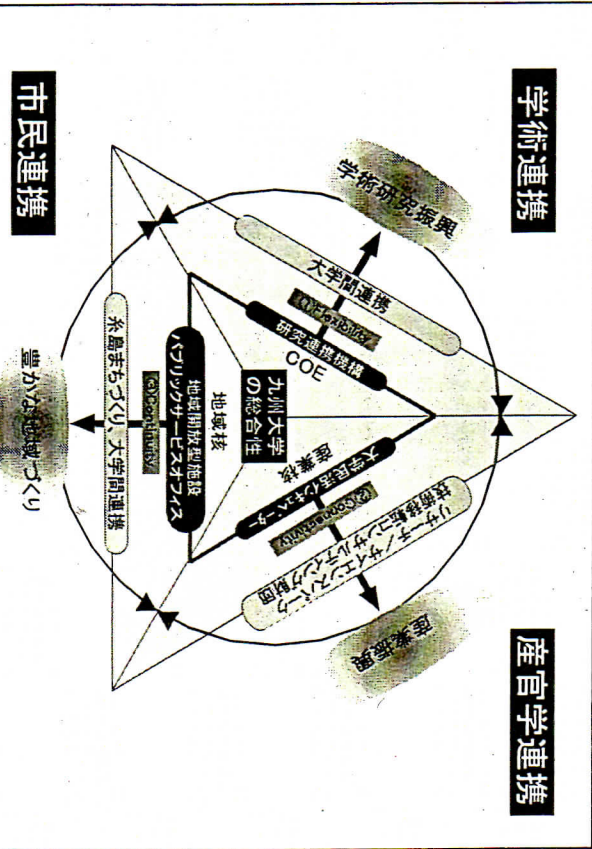
・『パートナーシップ』の軸を通じ、大学の総合性を活かした学外との連携およびその支援体制を構築し、地域貢献を図る。



■基本コンセプトのイメージ

学術連携

産官学連携



学術連携

- 大学院大学としての研究力・総合力を活かしてCOE機能(世界レベルの学術研究機能)を強化すると共に、研究分野の学際化、研究展開の国際化などの流動する環境に柔軟に対応する研究体制およびその支援体制を確立し、開かれたグローバルな学術連携のネットワークを構築する。
- さらに、新キャンパス周辺へ先端的な国立研究機関等の立地を促進し、学術研究資源の集積および学術研究資源相互の連携を強化することによって、糸島地域に九大を中心とした学術振興拠点(アジアの学術研究特区)を形成する。
- 同時に、周辺地域(福岡・九州)の大学間連携を促進し、地域全体での学術研究振興に積極的な役割を果たす。

産官学連携

- 大学は産学連携の核として学外との接続性の高い開かれた仕組みを構築し、産官学の連携を推進することにより、グローバルな競争力を有し自律的に発展する地域づくりに対して積極的な役割を果たす。
- 九大新キャンパス周辺に、先端的な国立研究機関等に加え、民間企業の立地集積を促進することにより、産官学の連携や異業種間交流を促進し、大学の人材や研究ストックを活用した活発な研究開発・製品開発活動の展開を図る。
- 九大を中心に周辺自治体や地元企業等と共同で総合的なシンクタンクの設立を図り、福岡・九州、ひいてはアジア・世界の地域課題や政策立案等の面で積極的な役割を果たす。
- 九大が保有する技術の事業化を促進し、新産業を創出する産学協同研究の場(インキュベーター等)を整備することにより、民間のニーズに対応した機動的な研究開発活動を展開し、内発的な産学連携のしくみづくりを行なうと共に、起業家風土の醸成を図る。
- 産官学連携の推進にあたっては、学内横断型の支援組織の設置など、連携のための学内の仕組みや体制を整備すると共に、学外の支援組織(技術移転コンソルチウム/学内財団等)との連携や周辺大学間連携など、学外とのネットワークを強化し、地域全体の連携促進の仕組みを構築する。

市民連携

- 大学は、地域コミュニティの中心的メンバー(地域核)として、地域の知的環境の充実や文化的風土の形成によって地域づくりの人材の育成・集積や、まちづくりを継続的に取り組むことにより、新たな時代の地域づくりに対して積極的な役割を果たす。
- 新キャンパスにおいて、市民との交流拠点を形成することによって、地域に開かれた大学を実現する。特に、本部交流ゾーンについては大学の「顔」として位置付け、空間的に周辺との一体化を図ると共に、地域開放型施設等、大学と地域との交流を促進する機能を導入する。
- 地域の知的環境の充実や文化振興を促進するために、生涯学習(コミュニティプログラム)や社会人リカレント教育、市民開放型のイベント等、市民交流プログラムの充実を図る。
- 市民との交流を促進するために、大学に関する市民向け情報の積極的発信や、市民との交流の窓口となるパブリックスペース/市民交流センターの設置や、都心部での情報発信・交流や社会人リカレント教育の充実を図る。また、新キャンパスに隣接した学生街整備などによって、学生や教職員にとって利便性の高いキャンパスライフの実現を図ると共に、糸島の自然環境など地域資源を活かした大学関連施設(大学セミナーハウスやコンベンション施設)の整備、学生サークル活動や余暇活動の充実等、糸島地域において新たなライフスタイルを有する学術研究都市づくりを促進する。

■地域連携の概要

導入機能	目的・意義	概要	必要となる施設・組織(例)	実施のインセンティブ
<p>産官学の共同研究を促進するしくみづくり</p> <p>●研究連携支援機能(学内)</p>	<p>○大学の総合性を活かした学際的な共同研究の促進</p> <p>○教育・研究に関する学外との交流やコミュニケーションの活性化</p> <p>○効果的な連携メカニズムの構築と教官の事務負担の軽減</p> <p>○学内の研究・教育メカニズムの積極的な社会還元への促進</p>	<p>一元化されたわかりやすい窓口の設置</p> <p>学内横断型あるいは大学間連携によるコーディネートの実施</p> <p>研究費獲得の支援(国や企業の研究助成に関する情報の収集・申請の支援)</p> <p>書類作成・契約手続・会計処理等、教官の事務負担の軽減</p> <p>大学の研究シーズや研究者情報など、情報の発信や学外との交流促進</p> <p>専門分野でのセミナーなど教育・研修プログラムの実施</p>	<p>学内横断型の研究連携機構</p> <p>●大学中心</p> <p>周辺の大学間連携組織</p> <p>●地域との連携</p>	<p>◆学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務負担の軽減 ・研究費の獲得 ・学際的な研究テーマへの取組み…等 ◆学外(企業等) ・研究開発のノウハウの活用(ポスドク、大学院生等) ・安面で優秀な人材の活用(ポスドク、大学院生等) ・新たな研究シーズの発掘…等
<p>●研究連携支援機能(学外)</p>	<p>○民間企業の効果的な研究開発の支援</p> <p>○大学から企業への技術移転の支援</p>	<p>民間企業や自治体からみた大学との共同研究に関する窓口</p> <p>民間企業や自治体の研究案件の大学への仲介</p> <p>企業化に関する技術評価コンサルトバンク</p>	<p>技術移転コンサルトバンク財団</p> <p>●地域との連携</p>	<p>◆学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究の拡大…等 ◆学外(企業等) ・研究開発のノウハウによる負担の軽減 ・研究開発のノウハウによる柔軟な研究開発体制…等
<p>研究シーズの事業化と新産業創出のための核づくり</p> <p>●インキュベーター機能</p>	<p>○学内研究シーズの事業化</p> <p>○産学共同研究の場の提供</p> <p>○民生導入による機動的な研究開発の実施</p> <p>○中堅・ベンチャー企業にも利用しやすい研究環境整備</p>	<p>共同研究のための貸し研究所やラボラトリーの整備</p> <p>ベンチャー企業向けの格安床賃貸や各種ベンチャー支援事業の展開</p> <p>交流施設(会議室・ホール)や研修施設等の共同利用施設の整備</p>	<p>大学民生活イノベーション施設</p> <p>●大学中心</p>	<p>◆学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研究メカニズムの活用 ・研究活動の活性化(機動的な研究の推進)…等 ◆学外(企業等) ・大学人材や施設の活用 ・新たな研究シーズの発掘…等
<p>九大を中心とする新たな産官学共同研究・産業界との拠点づくり</p> <p>●シンクタンク機能</p>	<p>○研究分野の学際化、研究展開の国際化に対応した研究体制の確立</p> <p>○地域づくりに関するコンサルティングや人材育成の支援</p> <p>○知から実践へのノウハウシステムの構築</p>	<p>総合的な研究プロジェクトの企画立案</p> <p>総合的な地域政策立案や地域課題の解決</p> <p>ノウハウの人材育成・研修の実施</p>	<p>アジア連携研究機構(仮)</p> <p>●地域との連携</p>	<p>◆学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動の活性化 ・共同研究の拡大 ・学際的なテーマへの取組み…等 ◆学外(地元自治体) ・地域の学術研究振興…等
<p>●研究開発機能</p>	<p>○大学に隣接(近接)した国立研究機関や民間研究所との連携の強化と相乗効果の発揮</p>	<p>大学に隣接(近接)した研究機関の集積形成</p>	<p>リサーチ/サイエンスパーク</p> <p>●地域との連携</p>	<p>◆学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業との共同研究の促進…等 ◆学外(企業等) ・大学人材や施設の活用…等
<p>市民との交流の拠点づくり</p> <p>●市民交流機能</p>	<p>○市民と大学との交流拠点の形成(市民に開かれた大学の実現)</p> <p>○糸島地域の新たな地域づくりの核の形成</p>	<p>キャンパスや大学施設の市民開放(オープンキャンパスの実現)</p> <p>民生活施設等の積極的導入によるにぎわい空間の形成</p> <p>市民が利用しやすい空間の形成と施設配置</p> <p>都市部における九大へのアクセス性の確保</p>	<p>開かれた本部交流ゾーン</p> <p>●大学中心</p> <p>地域開放型施設</p> <p>サテライトキャンパス</p> <p>●大学中心</p>	<p>◆学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス内のにぎわいの形成 ・市民との接点の増加…等 ◆学外(市民等) ・知的環境の充実 ・都市施設の充実…等
<p>市民との交流を支援するしくみづくり</p> <p>●市民交流支援機能</p>	<p>○地域の知的環境の充実(生涯学習機会の充実等)</p> <p>○地域の人材やコミュニケーションの育成</p> <p>○大学による市民サービスの充実</p> <p>○大学の情報発信</p>	<p>コミュニティワーカー(生涯学習機会)の充実(必要に応じた周辺の大学間連携)</p> <p>大学施設での学術・文化振興を目的としたイベントの開催</p> <p>社会人向けの教育の充実</p> <p>大学の総合的な情報提供(カレッジ、キャンパス案内等)</p> <p>糸島の地域情報の提供</p>	<p>ハッカバード・ビジネスアリア</p> <p>●大学中心</p> <p>周辺の大学間連携組織</p> <p>●地域との連携</p>	<p>◆学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人への把握 ・大学経営への貢献 ・大学間連携による負担軽減…等 ◆学外(市民等) ・知的環境の充実 ・大学間連携による市民講座のテーマ充実…等
<p>糸島における新たなライフスタイルと生活環境づくり</p> <p>●生活連携機能</p>	<p>○学生・教職員の生活環境の充実</p> <p>○糸島における新たなライフスタイルの形成</p>	<p>大学周辺の学生街の整備</p> <p>学生クラブや教職員住宅の供給、便利施設・都市施設の整備</p> <p>糸島の周辺環境(地域資源)を活かした教育・研究活動や学生サテライト活動、余暇活動などによる新たなライフスタイルの形成</p>	<p>糸島のまちづくり</p> <p>●地域との連携</p> <p>大学まちづくり交流会議</p> <p>●地域との連携</p>	<p>◆学内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生・教職員の生活利便性の確保…等 ◆学外(自治体、市民等) ・九大を核とした特色のあるまちづくりの推進…等

白抜き…取組みの主体

■学術連携および産官学連携の展開



(1) 九大における地域振興の「核」づくりの開始

① 既存キャンパスでの大学民活インキュベーター(リサーチキャンパス)の整備
 ・九大の産学連携の促進を図る大学民活インキュベーター施設を、既存キャンパスにおいて先行的に行い、連携のための体制の整備(研究連携機構)や連携の蓄積を行う。

② 学内横断組織の形成(産官学の研究連携を支援する組織の形成)

ビズネスナビルの活動開始
 ●目的:
 ・学内シーズの抽出・発信など、
 ・産官学連携のノウハウの蓄積
 ※組織の新設は行わない

研究連携機構(仮称)の立上げ
 ●目的:
 ・文系・理系を含めた研究連携促進のための横断的専門組織の設置

機能強化
 ※ビズネスナビルの機能強化と専門組織化

●機能:
 ・窓口機能
 ・発信・交流機能
 ・コーディネーター機能
 ・共同研究の実施機能
 ・企業等への技術移転機能

(2) 新キャンパスにおける地域振興の「核」施設の整備

① 研究連携機構(仮称)新キャンパスオフィスの設置
 ・左記の機能を有するオフィスを新キャンパス内に設置し、新キャンパスにおける産官学連携、地学連携を支援する。

② 大学民活インキュベーター施設(リサーチキャンパス)の整備

●共同研究施設整備の目的:
 ・学内研究シーズの活用促進
 ・民間主導の機動的な研究開発の促進
 ・地域産業振興の核づくり

●施設の機能:
 ・研究開発機能(貸研究室、オープンラボなど)
 ・インキュベーター機能(格安の床賃貸、ベンチャー支援など)
 ・交流施設(会議室、ホールなど)
 ・研修施設(教室、実習施設など)

糸島地域での産業の受け皿づくり
 ●リサーチ/サイエンス/バー整備の目的:
 ・インキュベーター卒業企業の受け皿づくり
 ・大卒人材の受皿となる企業集積の形成
 ・核となる研究所の立地促進
 ・産官学連携のさらなる活性化
 ・企業集積の形成による地域振興

周辺の大学間連携
 ●目的:
 ・地域全体での学術研究振興
 ・各々の大学の得意分野を活かした学際的
 共同研究の推進

●連携の内容(例):
 ・研究開発コンソーシアム
 ・大学研究者チーム・コース等による情報発信
 ・研究交流会等の活性化

技術移転コンサルティブ財団の設立
 ●財団設立の目的:
 ・大学から企業への技術移転の促進
 ・地元企業の効率的な研究開発の支援

●財団の事業内容:
 ・民間企業の研究案件の大学への仲介
 ・地元企業の国際技術移転の促進
 ・技術評価/コンサルティブ財団(ドイツ)

●例) シュタインハイム財団(ドイツ)

ジョイントベンチャー方式による地域NPOの設立
 ●設立の目的:
 ・地域産業振興/シフトの総合的整備(資源の流出防止、利益の地域還元)
 ・地域の経済力・国際競争力の向上
 ・企業、自治体、大学、地域住民の共同作業による新たなコミュニティづくり

●活動内容(例):
 ・ビズネス環境の整備(規制緩和、インセンティブ等)
 ・教育環境の向上(地域を担う人材の育成)
 ・新たなビズネス・起業家の支援プログラム整備
 ・社会基盤、生活環境の向上……等々

九大中心の取組み
 地域との連携による取組み

グローバルスタンダードな実験的学術研究都市の実現

